

第5章 認知症と成年後見制度等

1 認知症

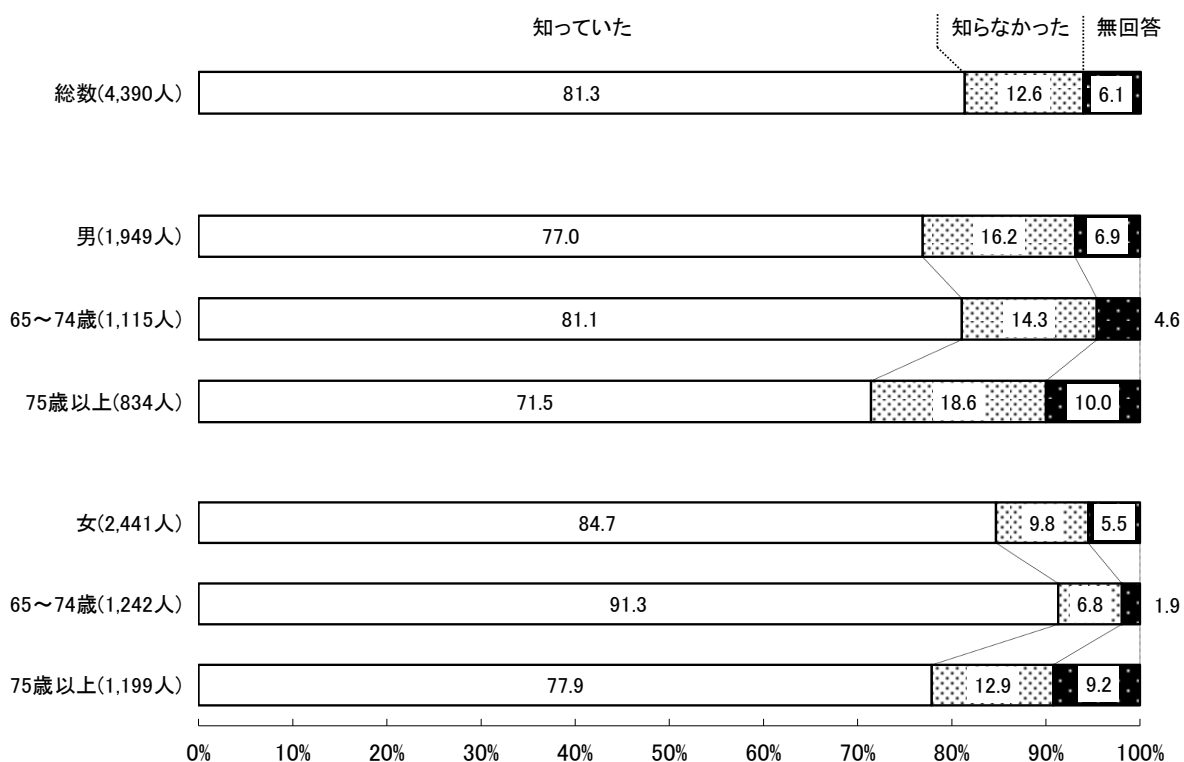
(1) 認知症に関する理解度①—性・年齢階級別

対象者全員に、認知症の原因や状態によっては、早期に発見し、適切な治療を受けることによって、症状を軽くしたり、進行を遅らせることが可能なことを知っているか聞いた。

「知っていた」割合は、女性 65～74 歳で 9 割

「知っていた」の割合は 81.3%、「知らなかった」は 12.6%であった。特に、「知っていた」割合は、65～74 歳の女性では 91.3%で、9 割となっている。(図 5-1)

図 5-1 認知症に関する理解度①—性・年齢階級別



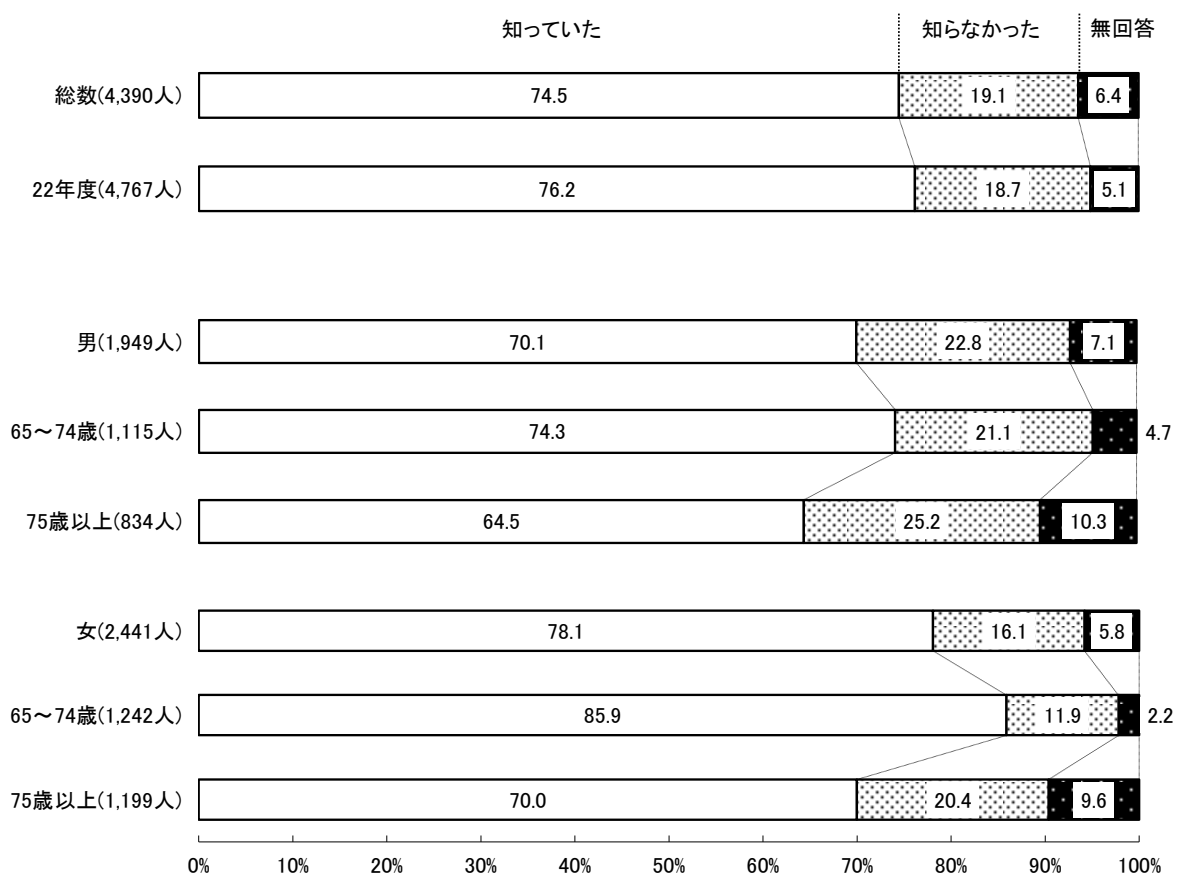
(2) 認知症に関する理解度②一性・年齢階級別

対象者全員に、認知症になると何も分からなくなってしまうわけではなく、感情やプライドは保持されるため、本人は多くの不安や混乱を抱えることを知っているか聞いた。

「知らなかった」割合は、75歳以上の男性で4人に1人

「知っていた」の割合は74.5%、「知らなかった」は19.1%であった。特に、「知らなかった」割合は、75歳以上の男性では、25.2%となっている。(図5-2)

図5-2 認知症に関する理解度②一性・年齢階級別



(3) 認知症に関する対応①—性・年齢階級別

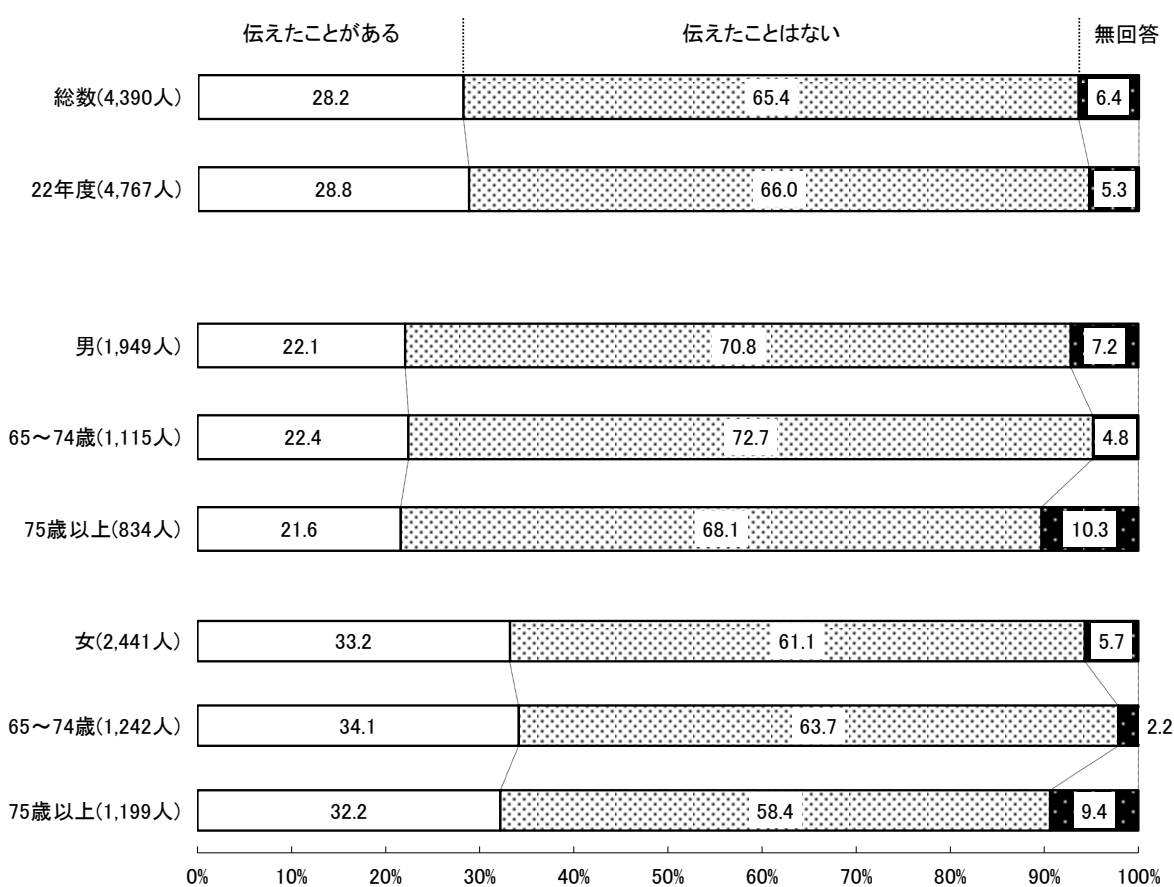
対象者全員に、認知症になった場合に備えて、希望する暮らし方や財産管理について誰かに伝えたことがあるか聞いた。

「伝えたことがある」割合は、男性が2割、女性が3割

「伝えたことがある」の割合は28.2%、「伝えたことはない」の割合は65.4%となっている。

性別で見ると、「伝えたことがある」の割合は、男性22.1%、女性33.2%で、女性の方が11.1ポイント高くなっている。(図5-3)

図5-3 認知症に関する対応①—性・年齢階級別



(4) 認知症の学習会などへの参加意向とその内容〔複数回答〕

対象者全員に、お住まいの地域や職場で、認知症について学ぶ講座や学習会が行われた場合、参加したいと思うか聞いた。

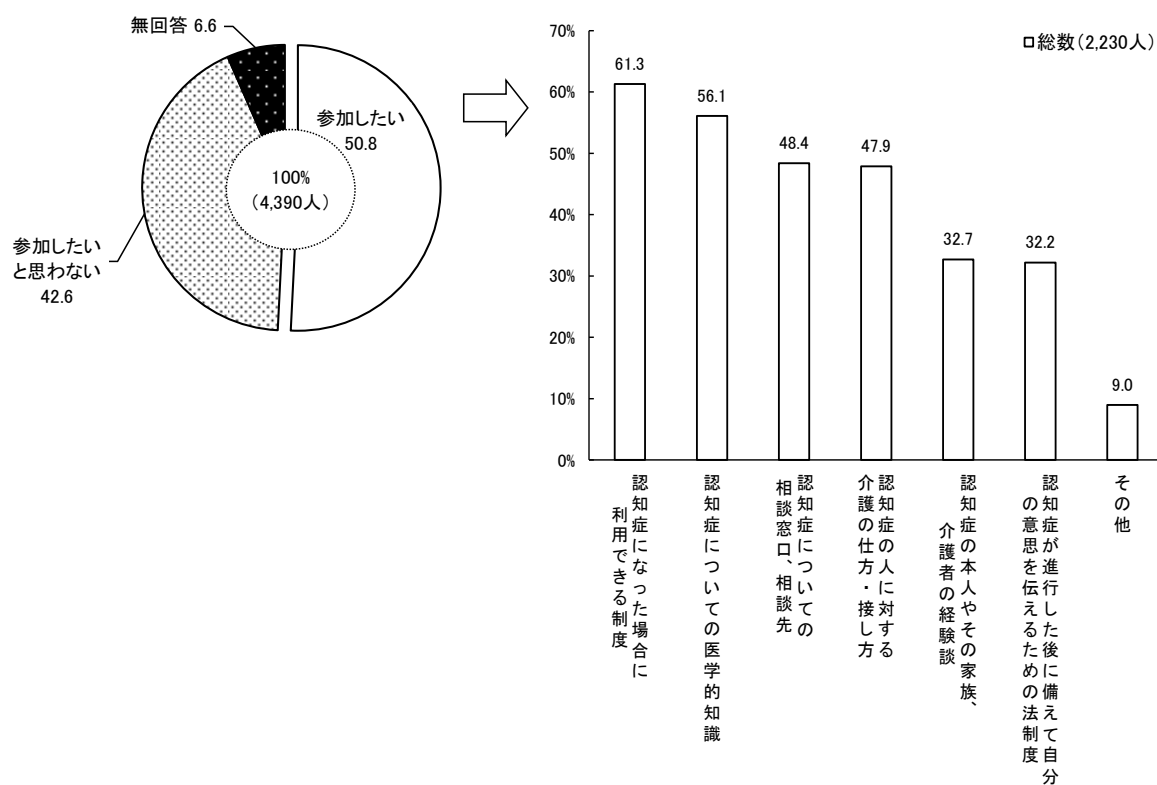
「参加したい」割合は、5割

「参加したい」は50.8%、「参加したいと思わない」は42.6%となっている。

参加したいと思う学習会などの内容は、「認知症になった場合に利用できる制度」の割合が最も高く61.3%、次いで「認知症についての医学的知識」が56.1%となっている。

(図5-4)

図5-4 認知症の学習会などへの参加意向とその内容〔複数回答〕



2 成年後見制度及び日常生活自立支援事業(地域福祉権利擁護事業)

(1) 成年後見制度

ア 成年後見制度の認知度一性・年齢階級、動作能力類型、成年後見制度の利用意向別

「知っている」割合が45.1%、「知らない」割合が22.6%

対象者全員に、「成年後見制度」を知っていたか聞いたところ、「知っている」割合が45.1%、「知らない」割合が22.6%で、「知らない」の割合が22年度調査と比べて12.9ポイント低くなっている。

「知っている」の割合は、年齢階級別にみると65～74歳が51.0%、動作能力類型別にみると、障害のない高齢者が52.6%で、それぞれ最も高くなっている。

また、成年後見制度の利用意向別にみると利用したいと考える人は、制度を「知っている」人の56.2%で、5割を超えている。(表5-1)

※ 成年後見制度とは

認知症などの理由で判断能力の不十分な方に対し、成年後見人などが本人の意思を尊重し、財産を管理したり、生活に必要な様々な契約を結ぶといった支援をする制度。法定後見制度と任意後見制度の2つがある。利用のための手続きに費用がかかる。

表5-1 成年後見制度の認知度一性・年齢階級、動作能力類型、成年後見制度の利用意向別

		総数	知っている	たが中 こ、身 と言は が業知 あはら る聞な い	知らない	無 回 答
総数		100.0 (4,390)	45.1	25.7	22.6	6.6
性別	男	100.0 (1,949)	43.7	24.4	24.7	7.2
	女	100.0 (2,441)	46.2	26.8	20.9	6.1
年齢階級別	65～74歳	100.0 (2,357)	51.0	26.1	19.0	3.9
	75～84歳	100.0 (1,587)	41.8	26.0	26.0	6.2
	85歳以上	100.0 (446)	25.3	22.9	29.4	22.4
動作能力類型別	寝たきりなど的高齢者	100.0 (362)	14.6	18.0	26.5	40.9
	比較的重い障害のある高齢者	100.0 (356)	37.9	23.9	29.2	9.0
	軽い障害のある高齢者	100.0 (907)	39.4	30.9	26.1	3.6
	障害のない高齢者	100.0 (2,665)	52.6	25.3	19.9	2.1
成年後見制度の利用意向別の	利用したい	100.0 (370)	56.2	32.2	11.6	-
	利用したいと思わない	100.0 (2,138)	57.7	24.4	17.8	0.2
	既に利用している	100.0 (15)	73.3	20.0	6.7	-
	わからない	100.0 (1,540)	32.7	30.8	36.0	0.5
22年度		100.0 (4,767)	35.9	23.4	35.5	5.2

イ 成年後見制度の利用意向一性・年齢階級、子供の有無別

「利用したいと思わない」の割合が最も高く、約5割

対象者全員に、「成年後見制度」の利用意向を聞いたところ、「利用したい」8.4%、「利用したいと思わない」48.7%、「既に利用している」0.3%、「わからない」35.1%となっている。

子供の有無別にみると、「利用したい」の割合が、子供がいる人は7.3%であるのに対し、子供がいない人は14.6%と、子供がいない人の方が、7.3ポイント高くなっている。(表5-2)

表5-2 成年後見制度の利用意向一性・年齢階級、子供の有無別

		総 数	利 用 し た い	思 わ な い と	既 に 利 用 し て	わ か ら な い	無 回 答
総数		100.0 (4,390)	8.4	48.7	0.3	35.1	7.4
性 別	男	100.0 (1,949)	9.2	47.0	0.2	35.6	8.0
	女	100.0 (2,441)	7.8	50.0	0.5	34.7	7.0
年 齢 階 級 別	65～74歳	100.0 (2,357)	9.7	47.6	0.4	37.9	4.5
	75～84歳	100.0 (1,587)	7.6	51.2	0.3	33.3	7.7
	85歳以上	100.0 (446)	4.7	45.7	0.4	26.7	22.4
有 子 無 児 の 別	子供がいる	100.0 (3,708)	7.3	50.9	0.3	33.6	7.9
	子供はいない	100.0 (676)	14.6	36.7	0.7	43.3	4.6
22年度		100.0 (4,767)	8.3	48.4	0.3	37.6	5.4

(2) 日常生活自立支援事業（地域福祉権利擁護事業）

ア 日常生活自立支援事業の認知度

一性・年齢階級、動作能力類型、日常生活自立支援事業の利用意向別

「知らない」割合は、4割

対象者全員に、「日常生活自立支援事業」を知っていたか聞いたところ、「知っている」割合が24.1%、「知らない」割合が44.8%であった。

「知っている」の割合は、年齢階級別にみると65～74歳が27.3%、動作能力類型別にみると、障害のない高齢者が29.0%で、それぞれ最も高くなっている。（表5-3）

※ 日常生活自立支援事業（地域福祉権利擁護事業）とは
判断能力に不安がある方を対象として、日常の金銭管理の支援や、福祉サービスの利用について相談や手続きの支援を行う制度。利用するごとに費用がかかる。

表5-3 日常生活自立支援事業の認知度

一性・年齢階級、動作能力類型、日常生活自立支援事業の利用意向別

		総数	知っている	たが中 こ、身 と言は が葉知 あはら る聞 ない	知らない	無回答
総数		100.0 (4,390)	24.1	23.5	44.8	7.6
性別	男	100.0 (1,949)	22.1	23.3	46.2	8.5
	女	100.0 (2,441)	25.7	23.6	43.7	7.0
年齢階級別	65～74歳	100.0 (2,357)	27.3	24.0	44.1	4.6
	75～84歳	100.0 (1,587)	22.5	24.5	45.4	7.6
	85歳以上	100.0 (446)	12.8	17.3	46.4	23.5
動作能力類型別	寝たきりなど的高齢者	100.0 (362)	6.9	12.7	39.0	41.4
	比較的重い障害のある高齢者	100.0 (356)	17.4	23.6	48.9	10.1
	軽い障害のある高齢者	100.0 (907)	20.1	24.8	50.6	4.5
	障害のない高齢者	100.0 (2,665)	29.0	24.2	43.6	3.2
日常生活利用意向別	利用したい	100.0 (432)	40.0	30.1	29.9	-
	利用したいと思わない	100.0 (1,737)	33.5	25.4	40.5	0.6
	既に利用している	100.0 (17)	82.4	11.8	5.9	-
	わからない	100.0 (1,841)	15.2	24.2	60.1	0.5
22年度		100.0 (4,767)	21.8	22.9	49.9	5.5

イ 日常生活自立支援事業の利用意向一性・年齢階級、子供の有無別

「利用したいと思わない」の割合は、4割

対象者全員に、「日常生活自立支援事業」の利用意向を聞いたところ、「利用したい」9.8%、「利用したいと思わない」39.6%、「既に利用している」0.4%、「わからない」41.9%となっている。

子供の有無別にみると、「利用したい」の割合が、子供がいる人は8.9%であるのに対し、子供がいない人は14.8%と、子供がいない人の方が、5.9ポイント高くなっている。(表5-4)

表5-4 日常生活自立支援事業の利用意向一性・年齢階級、子供の有無別

		総数	利用したい	利用したいと思わない	既に利用している	わからない	無回答
総数		100.0 (4,390)	9.8	39.6	0.4	41.9	8.3
性別	男	100.0 (1,949)	10.0	38.9	0.1	42.1	8.9
	女	100.0 (2,441)	9.7	40.1	0.6	41.8	7.8
年齢階級別	65～74歳	100.0 (2,357)	11.3	38.1	0.4	45.2	5.0
	75～84歳	100.0 (1,587)	8.8	42.0	0.4	40.0	8.8
	85歳以上	100.0 (446)	5.8	38.8	0.4	31.6	23.3
有子無児別の	子供がいる	100.0 (3,708)	8.9	41.5	0.4	40.6	8.7
	子供はいない	100.0 (676)	14.8	29.6	0.4	49.9	5.3
22年度		100.0 (4,767)	8.7	43.8	0.1	41.7	5.7

第6章 住まい

1 住宅の状況

(1) 住宅の種類

「持家」の割合は、7割超

対象者全員に、住んでいる住宅について聞いたところ、「持家」が76.4%、「借家・賃貸住宅など」が22.6%となっている。種類別にみると、「持家（一戸建て）」の割合が最も高く60.1%、次いで「持家（分譲マンションなど）」が16.3%となっている。（表6-1）

表6-1 住宅の種類

	総数	持家		借家・賃貸住宅など	民間賃貸住宅	都・区市町村の公営賃貸住宅	都市再生機構（旧公団）・ 公社などの賃貸住宅	借家（一戸建て）	高齢者向け住宅など	その他	無回答	
		持家（一戸建て）	持家（分譲マンションなど）									
27年度	100.0 (4,390)	76.4	60.1	16.3	22.6	12.8	5.6	2.4	1.1	0.7	0.6	0.4
22年度	100.0 (4,767)	78.4	61.1	17.3	21.1	8.6	5.2	5.5	1.3	0.5	0.3	0.2

注1) 27年度の高齢者向け住宅などとは、シルバーピア、サービス付き高齢者向け住宅、有料老人ホーム、ケアハウス、認知症高齢者グループホームなどを指す。

2) 22年度の高齢者向け住宅などは、シルバーピア、高齢者専用賃貸住宅、有料老人ホーム、ケアハウス、認知症高齢者グループホームなどとしていた。

ア 住宅の種類—地域、年齢階級、世帯構成（世代）別

「持家」の割合は、単身世帯（ひとりぐらし）は5割、三世帯世帯では9割

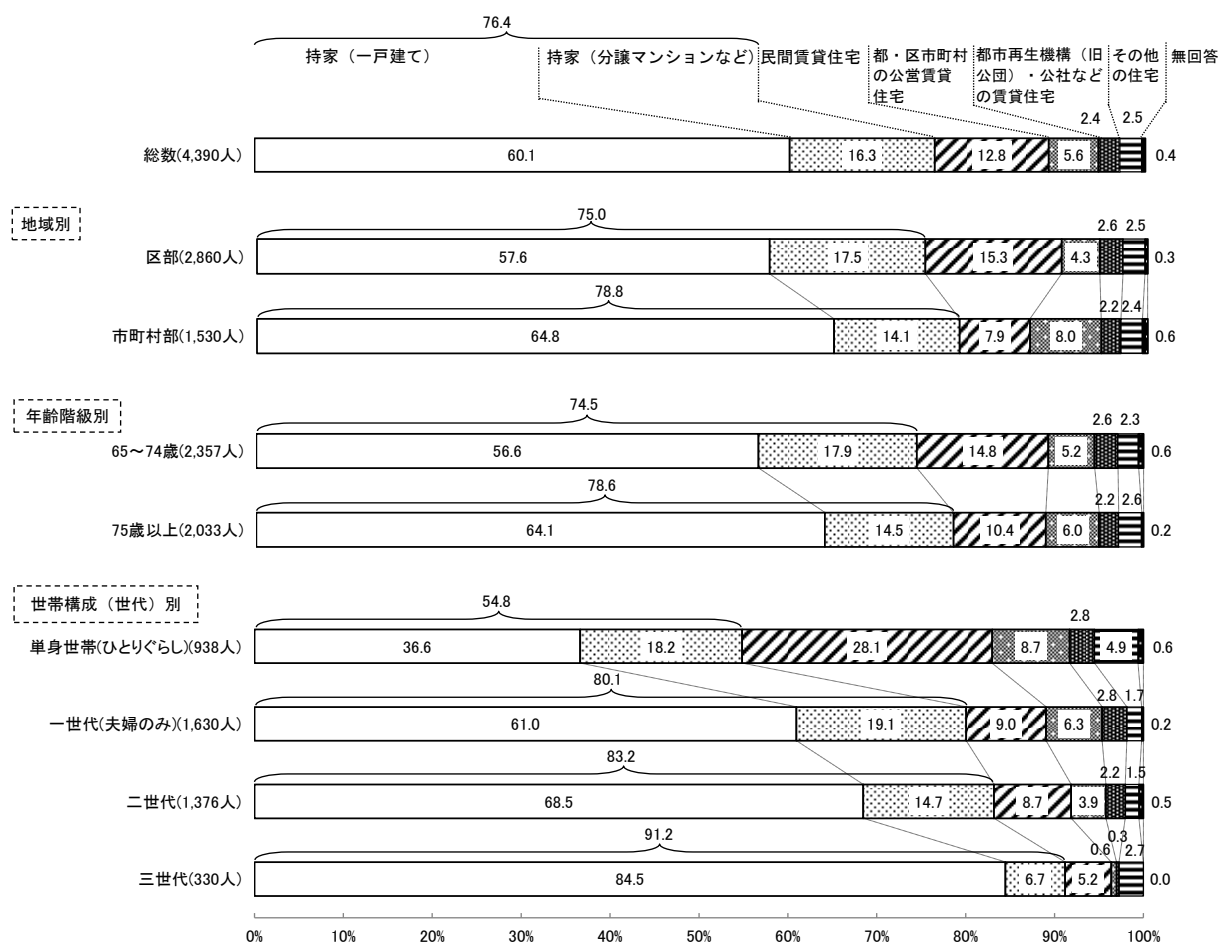
住宅の種類を地域別にみると、「持家（一戸建て）」の割合は、区部が57.6%、市町村部が64.8%で、市町村部の方が、7.2ポイント高くなっている。

年齢階級別にみると、「持家（一戸建て）」の割合は、65～74歳が56.6%、75歳以上は64.1%で、75歳以上の方が高い割合となっている。一方、「持家（分譲マンションなど）」は、65～74歳が17.9%、75歳以上は14.5%で、65～74歳の方が高い割合となっている。

世帯構成（世代）別にみると、単身世帯（ひとりぐらし）では、「持家（一戸建て）」と「持家（分譲マンションなど）」を合わせた「持家」の割合は54.8%で、他の世帯と比較して、20ポイント以上低い割合になっている。

一方、三世帯世帯では、「持家（一戸建て）」と「持家（分譲マンションなど）」を合わせた「持家」の割合は91.2%で、9割を超えている。（図6-1）

図6-1 住宅の種類—地域、年齢階級、世帯構成（世代）別



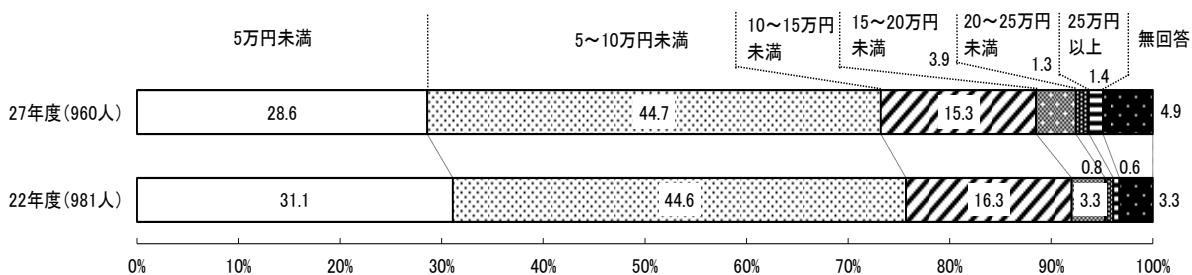
注) 統計比率を合算した比率は、実数を用いて算出しているため、各比率を単純に合算した比率とは一致しない場合がある。

(2) 家賃

「5～10万円未満」の割合が最も高く、44.7%

住宅の種類が賃貸住宅と回答した人(960人)に、月々の家賃について聞いたところ、「5～10万円未満」の割合が最も高く44.7%、次いで、「5万円未満」が28.6%であった。
(図6-2)

図6-2 家賃



(3) 居住開始時期

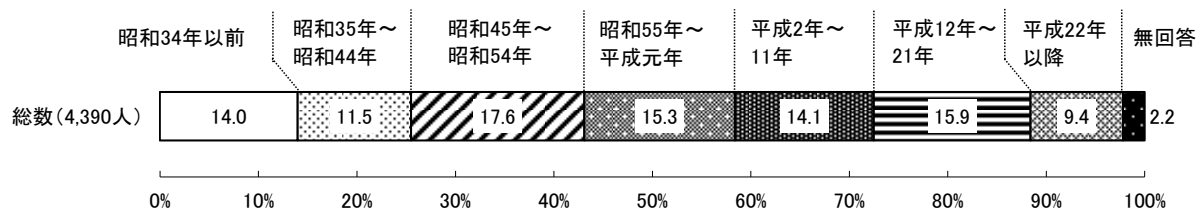
対象者全員に、現在、住んでいる住宅の居住開始時期を聞いた。

※入居した住宅が建て替えられた場合には、建替え以前の入居時期を回答。

「昭和45年～昭和54年」の割合が最も高く、17.6%

「昭和45年～昭和54年」の割合が最も高く17.6%、次いで「平成12年～平成21年」が15.9%、「昭和55年～平成元年」が15.3%と続いている。(図6-3)

図6-3 居住開始時期



ア 居住開始時期一年齢階級、世帯構成（世代）、住宅の種類別

持家（一戸建て）では、昭和 54 年以前から住んでいる人の割合が 6 割

居住開始時期を世帯構成（世代）別にみると、「平成 22 年以降」の割合は、単身世帯（ひとりぐらし）は 15.9%で、総数(9.4%)と比較して高くなっている。

住宅の種類別にみると、持家（一戸建て）に住んでいる人は、「昭和 45 年～昭和 54 年」の割合が最も高く 23.0%、次いで「昭和 34 年以前」20.6%、「昭和 35 年～44 年」16.9%で、昭和 54 年以前から住んでいる人の割合が 6 割となっている。

一方、持家（分譲マンションなど）、都・区市町村の公営賃貸住宅、都市再生機構（旧公団）・公社などの賃貸住宅、借家（一戸建て）に住んでいる人は、「平成 12 年～21 年」の割合が最も高く（20.8%～26.9%）、民間賃貸住宅に住んでいる人は、「平成 22 年以降」の割合が最も高く 31.4%となっている。（表 6-2）

表 6-2 居住開始時期一年齢階級、世帯構成（世代）、住宅の種類別

	総数	昭和 34 年以前	昭和 35 年～44 年	昭和 45 年～54 年	昭和 55 年～平成元年	平成 2 年～11 年	平成 12 年～21 年	平成 22 年以降	無回答	
総数	100.0 (4,390)	14.0	11.5	17.6	15.3	14.1	15.9	9.4	2.2	
年齢階級別	65～74歳	100.0 (2,357)	9.9	7.9	17.7	17.1	17.1	17.6	10.4	2.3
	75歳以上	100.0 (2,033)	18.7	15.7	17.4	13.3	10.6	13.8	8.3	2.2
世帯構成（世代）別	単身世帯（ひとりぐらし）	100.0 (938)	12.0	9.6	11.9	13.8	15.4	18.7	15.9	2.8
	一世代（夫婦のみ）	100.0 (1,630)	10.7	10.8	21.0	17.5	15.0	15.4	7.5	2.1
	二世代	100.0 (1,376)	16.6	12.8	18.2	15.8	12.8	14.5	7.3	2.0
	三世代	100.0 (330)	18.5	15.2	16.7	8.8	13.0	14.8	10.9	2.1
住宅の種類別	持家（一戸建て）	100.0 (2,637)	20.6	16.9	23.0	15.5	11.0	8.7	2.7	1.7
	持家（分譲マンションなど）	100.0 (715)	5.5	3.1	11.6	19.9	19.7	26.9	10.5	2.9
	民間賃貸住宅	100.0 (560)	2.1	1.8	4.8	9.1	20.5	27.9	31.4	2.3
	都・区市町村の公営賃貸住宅	100.0 (245)	4.9	6.1	12.2	18.4	16.7	25.7	13.9	2.0
	都市再生機構（旧公団）・公社などの賃貸住宅	100.0 (107)	1.9	3.7	16.8	14.0	18.7	26.2	15.0	3.7
	借家（一戸建て）	100.0 (48)	4.2	10.4	10.4	16.7	14.6	20.8	18.8	4.2
	高齢者向け住宅など	100.0 (32)	3.1	3.1	-	-	-	15.6	68.8	9.4
	その他	100.0 (28)	3.6	7.1	3.6	7.1	10.7	39.3	25.0	3.6

(4) 住まいの広さ－住宅の種類別

持家（一戸建て）の人は、「80～100 m²未満」の割合が最も高く 2 割、持家（分譲マンションなど）では、「60～80 m²未満」の割合が最も高く、4 割

対象者全員に、住宅の広さ（庭やバルコニーの面積は除く。）を聞いたところ、「60～80 m²未満」の割合が最も高く、18.4%となっている。

住宅の種類別にみると、持家（一戸建て）の人は、「80～100 m²未満」の割合が最も高く 19.9%、次いで「100～120 m²未満」が 15.4%、「60～80 m²未満」が 14.4%となっている。

持家（分譲マンションなど）では、「60～80 m²未満」の割合が最も高く 38.7%、次いで「40～60 m²未満」が 31.6%となっている。

都・区市町村の公営賃貸住宅と都市再生機構（旧公団）・公社などの賃貸住宅は、「40～60 m²未満」がそれぞれ 37.6%、46.7%で最も高くなっている。

民間賃貸住宅では「20～40 m²未満」の割合が最も高く 38.0%となっている。（表 6-3）

表 6-3 住まいの広さ－住宅の種類別

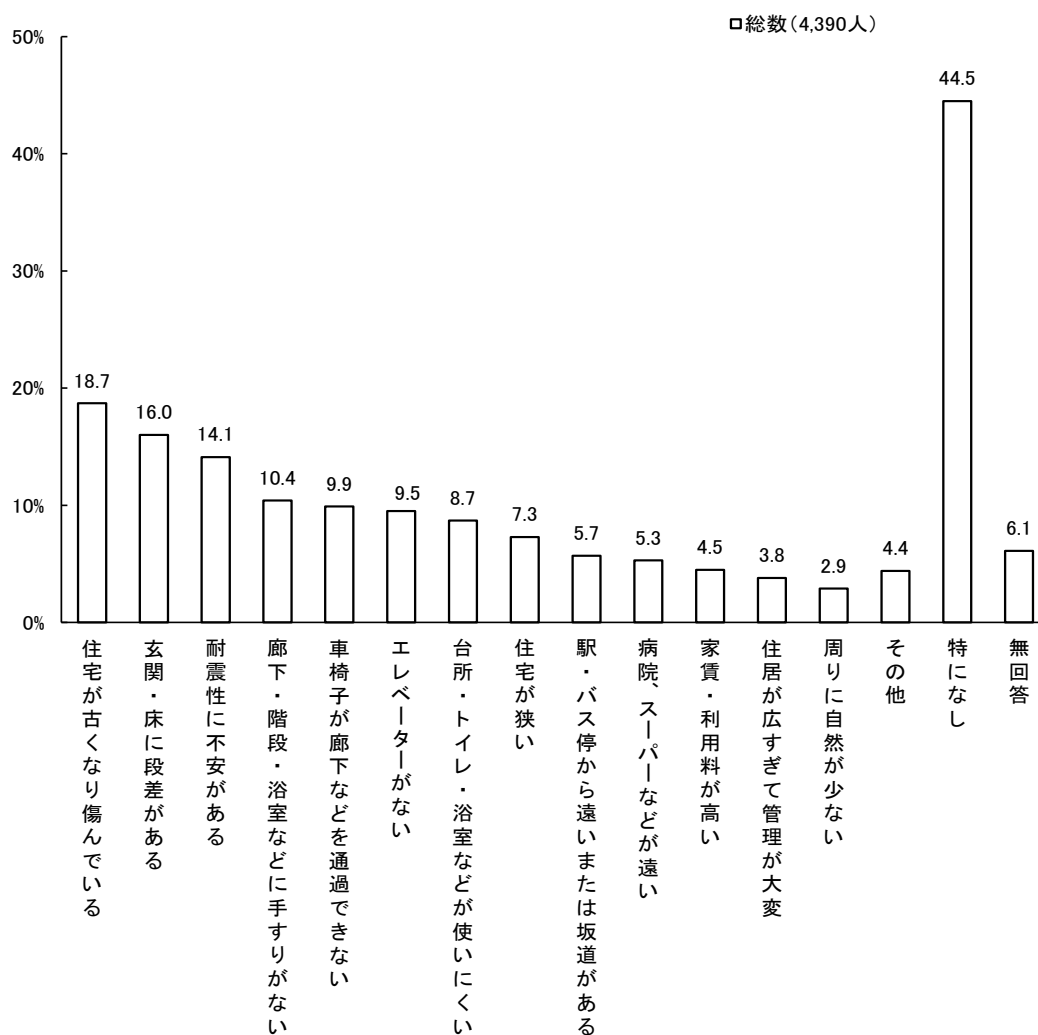
	総 数	2 0 m ² 未 満	2 0 m ² 未 満	4 0 m ² 未 満	6 0 m ² 未 満	8 0 m ² 未 満	1 0 m ² 未 満	1 0 m ² 未 満	1 0 m ² 未 満	1 0 m ² 未 満	1 0 m ² 未 満	1 0 m ² 未 満	2 0 m ² 以 上	無 回 答
総数	100.0 (4,390)	2.8	9.8	15.9	<u>18.4</u>	14.8	10.3	7.9	4.1	3.1	2.1	4.2	6.8	
持家（一戸建て）	100.0 (2,637)	0.3	3.7	6.9	<u>14.4</u>	<u>19.9</u>	<u>15.4</u>	12.2	6.4	4.8	3.4	6.9	5.5	
持家（分譲マンションなど）	100.0 (715)	0.7	3.1	<u>31.6</u>	<u>38.7</u>	13.4	4.1	2.1	0.8	0.8	0.1	0.1	4.3	
民間賃貸住宅	100.0 (560)	14.3	<u>38.0</u>	23.4	9.3	1.1	0.9	0.5	0.2	0.2	0.2	-	12.0	
都・区市町村の公営賃貸住宅	100.0 (245)	2.4	23.3	<u>37.6</u>	24.1	2.4	0.4	-	-	-	-	-	9.8	
都市再生機構（旧公団）・公社などの賃貸住宅	100.0 (107)	0.9	10.3	<u>46.7</u>	27.1	5.6	-	-	-	-	-	-	9.3	
借家（一戸建て）	100.0 (48)	2.1	20.8	20.8	14.6	10.4	10.4	4.2	4.2	-	-	-	12.5	
高齢者向け住宅など	100.0 (32)	37.5	34.4	6.3	-	-	-	3.1	-	-	-	-	18.8	
その他	100.0 (28)	25.0	14.3	7.1	7.1	14.3	10.7	3.6	3.6	-	-	-	14.3	

(5) 住まいで気になっているところ〔複数回答〕

「特になし」の割合が最も高く4割、「住宅が古くなり傷んでいる」は2割

対象者全員に、現在の住まいや環境で気になっているところを聞いたところ、「特になし」の割合が最も高く、44.5%となっている。気になっているところでは、「住宅が古くなり傷んでいる」の割合が最も高く18.7%、次いで、「玄関・床に段差がある」が16.0%、「耐震性に不安がある」が14.1%となっている。(図6-4)

図6-4 住まいで気になっているところ〔複数回答〕



ア 住まいで気になっているところ〔複数回答〕一年齢階級、動作能力類型、住宅の種類別

動作能力類型別にみると、「特になし」を除いて、どの類型も「住宅が古くなり傷んでいる」、「玄関・床に段差がある」の割合が高い

現在の住まいや環境で気になっているところを動作能力類型別にみると、「特になし」を除いて、どの類型も「住宅が古くなり傷んでいる」(9.9%~23.0%)、「玄関・床に段差がある」(14.6%~20.8%)の割合が高くなっている。

住宅の種類別にみると、持家(一戸建て)では「住宅が古くなり傷んでいる」、「玄関・床に段差がある」の割合が高くなっている。持家(分譲マンションなど)では「住宅が古くなり傷んでいる」、「耐震性に不安がある」、「廊下・階段・浴室などに手すりが無い」、「玄関・床に段差がある」の割合が高くなっている。民間賃貸住宅では「住宅が古くなり傷んでいる」、「家賃・利用料が高い」の割合が高くなっている。都・区市町村の公営賃貸住宅では「台所・トイレ・浴室などが使いにくい」、「住宅が古くなり傷んでいる」、「エレベーターがない」の割合が高くなっている。都市再生機構(旧公団)・公社などの賃貸住宅では「家賃・利用料が高い」、「住宅が古くなり傷んでいる」の割合が高くなっている。借家(一戸建て)では「住宅が古くなり傷んでいる」、「耐震性に不安がある」の割合が高くなっている。一方で「特になし」の割合は、持家(分譲マンションなど)の割合が55.2%で、他の住宅に比べて高くなっている。(表6-4)

表 6-4 住まいで気になっているところ〔複数回答〕

一年齢階級、動作能力類型、住宅の種類別

		総数	住宅が古くなり傷んでいる	住宅が狭い	住居が広すぎて管理が大変	使台所・トイレ・浴室などが使いにくい	廊下・階段・浴室などに手すりが無い	玄関・床に段差がある	車椅子が廊下などを通過できない	耐震性に不安がある	エレベーターがない	周りに自然が少ない	病院、スーパーなどが遠い	坂道がある	駅・バス停から遠いまたは	家賃・利用料が高い	その他	特になし	無回答
総数		100.0 (4,390)	18.7	7.3	3.8	8.7	10.4	16.0	9.9	14.1	9.5	2.9	5.3	5.7	4.5	4.4	44.5	6.1	
年齢階級別	65~74歳	100.0 (2,357)	20.4	8.4	3.5	9.4	10.6	16.1	10.2	15.6	9.7	3.2	5.1	6.0	5.2	4.7	44.7	3.5	
	75歳以上	100.0 (2,033)	16.8	6.1	4.2	8.0	10.2	15.9	9.6	12.4	9.2	2.6	5.4	5.3	3.7	4.0	44.4	9.1	
動作能力類型別	寝たきりなどの高齢者	100.0 (362)	<u>9.9</u>	2.8	2.8	8.3	9.1	<u>15.2</u>	5.0	8.6	8.3	2.5	5.2	4.7	4.4	3.0	24.0	41.4	
	比較的重い障害のある高齢者	100.0 (356)	<u>23.0</u>	10.7	4.8	13.2	13.2	<u>20.8</u>	13.5	20.2	11.0	4.2	7.6	6.2	5.9	4.5	32.9	8.1	
	軽い障害のある高齢者	100.0 (907)	<u>20.9</u>	8.6	3.9	10.3	11.4	<u>18.7</u>	11.4	16.6	11.9	3.4	4.9	7.1	5.6	4.0	43.3	2.4	
	障害のない高齢者	100.0 (2,665)	<u>18.4</u>	6.7	4.0	7.7	9.9	<u>14.6</u>	9.5	13.3	8.6	2.5	5.1	5.3	4.0	4.7	50.1	1.8	
住宅の種類別	持家(一戸建て)	100.0 (2,637)	<u>19.6</u>	5.1	5.7	7.0	10.7	<u>19.2</u>	12.1	16.1	9.1	3.0	5.1	6.4	0.0	3.5	44.4	6.5	
	持家(分譲マンションなど)	100.0 (715)	<u>12.3</u>	7.7	1.1	6.0	<u>8.7</u>	<u>8.7</u>	5.3	<u>8.8</u>	8.5	4.1	3.9	3.5	1.1	3.9	<u>55.2</u>	5.3	
	民間賃貸住宅	100.0 (560)	<u>22.9</u>	14.8	0.5	15.5	11.8	14.3	9.1	15.0	11.1	2.3	4.6	4.1	<u>21.4</u>	8.2	35.9	4.1	
	都・区市町村の公営賃貸住宅	100.0 (245)	<u>15.1</u>	7.8	0.4	<u>16.3</u>	11.0	13.5	4.9	10.6	<u>15.1</u>	2.0	13.1	8.6	9.4	5.3	42.0	5.3	
	都市再生機構(旧公団)・公社などの賃貸住宅	100.0 (107)	<u>19.6</u>	15.0	0.9	15.9	10.3	11.2	4.7	1.9	10.3	0.9	3.7	4.7	<u>33.6</u>	5.6	32.7	2.8	
	借家(一戸建て)	100.0 (48)	<u>47.9</u>	14.6	2.1	18.8	16.7	14.6	20.8	<u>31.3</u>	10.4	-	4.2	4.2	20.8	6.3	25.0	8.3	
	高齢者向け住宅など	100.0 (32)	-	6.3	-	3.1	-	-	-	3.1	-	-	3.1	3.1	-	3.1	65.6	25.0	
	その他	100.0 (28)	17.9	7.1	3.6	3.6	10.7	10.7	-	10.7	3.6	3.6	7.1	3.6	-	7.1	42.9	10.7	

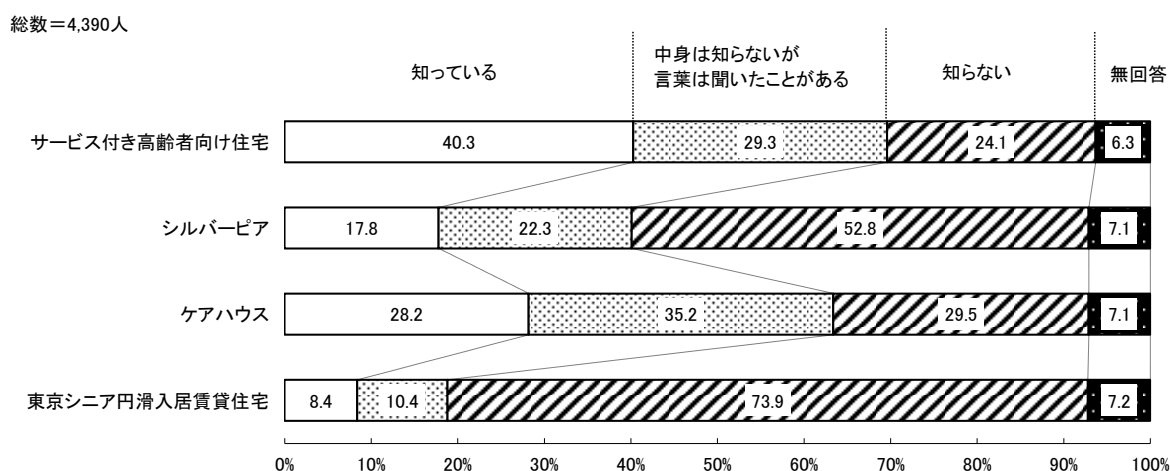
2 高齢者向け住宅の認知度

(1) 高齢者向け住宅の認知度

サービス付き高齢者向け住宅は「知っている」が4割、東京シニア円滑入居賃貸住宅は「知らない」が7割

対象者全員に、高齢者向け住宅を知っているか聞いたところ、「知っている」割合は、「サービス付き高齢者向け住宅」が40.3%、「シルバーピア」が17.8%、「ケアハウス」が28.2%、「東京シニア円滑入居賃貸住宅」が8.4%となっている。(図6-5)

図6-5 高齢者向け住宅の認知度



(2) サービス付き高齢者向け住宅の認知度－性・年齢階級、住宅の種類別

「知っている」の割合は、年齢階級が上がるにつれて低くなる

サービス付き高齢者向け住宅の認知度を年齢階級別にみると、年齢階級が上がるにつれて、「知っている」割合は、低くなっている（24.7%～46.2%）。

住宅の種類別にみると、「知っている」の割合は、持家（分譲マンションなど）に住んでいる人が49.2%で、総数の割合（40.3%）より8.9ポイント高くなっている。一方、都・区市町村の公営賃貸住宅に住んでいる人は、「知っている」の割合は29.0%で、総数の割合（40.3%）より11.3ポイント低くなっている。（表6-5）

表6-5 サービス付き高齢者向け住宅の認知度－性・年齢階級、住宅の種類別

		総数	知っている	が言中 あ葉身 るはは 聞知 いら たな こい とが	知らない	無回答
総数		100.0 (4,390)	<u>40.3</u>	29.3	24.1	6.3
性別	男	100.0 (1,949)	34.9	30.5	28.0	6.6
	女	100.0 (2,441)	44.6	28.3	20.9	6.1
年齢階級別	65～74歳	100.0 (2,357)	<u>46.2</u>	29.6	20.8	3.4
	75～84歳	100.0 (1,587)	<u>35.9</u>	31.0	27.0	6.1
	85歳以上	100.0 (446)	<u>24.7</u>	22.0	31.2	22.2
住宅の種類別	持家（一戸建て）	100.0 (2,637)	40.5	28.8	24.0	6.7
	持家（分譲マンションなど）	100.0 (715)	<u>49.2</u>	29.2	16.5	5.0
	民間賃貸住宅	100.0 (560)	34.1	31.3	30.4	4.3
	都・区市町村の公営賃貸住宅	100.0 (245)	<u>29.0</u>	31.0	33.5	6.5
	都市再生機構（旧公団）・公社などの賃貸住宅	100.0 (107)	41.1	31.8	24.3	2.8
	借家（一戸建て）	100.0 (48)	41.7	25.0	20.8	12.5
	高齢者向け住宅など	100.0 (32)	21.9	21.9	31.3	25.0
その他	100.0 (28)	35.7	35.7	17.9	10.7	

(3) シルバーピアの認知度－性・年齢階級、住宅の種類別

「知らない」の割合は、いずれの年齢階級においても5割

シルバーピアの認知度を年齢階級別にみると、年齢階級が上がるにつれて、「知っている」割合は、低くなっている（13.2%～19.5%）。「知らない」割合は、いずれの階級においても5割となっている（51.8%～53.0%）。

住宅の種類別にみると、「知っている」の割合は、都・区市町村の公営賃貸住宅に住んでいる人が26.5%で、総数の割合（17.8%）より8.7ポイント高くなっている。一方、持家（一戸建て）に住んでいる人は、「知っている」の割合は15.8%で、総数の割合（17.8%）より2.0ポイント低くなっている。（表6-6）

表6-6 シルバーピアの認知度－性・年齢階級、住宅の種類別

		総数	知っている	が言中 あ業身 るはは 聞知 いた ない こい とが	知らない	無回答
総数		100.0 (4,390)	<u>17.8</u>	22.3	52.8	7.1
性別	男	100.0 (1,949)	15.5	21.8	55.7	7.0
	女	100.0 (2,441)	19.6	22.7	50.6	7.2
年齢階級別	65～74歳	100.0 (2,357)	<u>19.5</u>	23.2	<u>53.0</u>	4.2
	75～84歳	100.0 (1,587)	<u>16.4</u>	23.5	<u>52.9</u>	7.1
	85歳以上	100.0 (446)	<u>13.2</u>	13.0	<u>51.8</u>	22.0
住宅の種類別	持家（一戸建て）	100.0 (2,637)	<u>15.8</u>	21.3	55.6	7.4
	持家（分譲マンションなど）	100.0 (715)	21.0	22.8	49.8	6.4
	民間賃貸住宅	100.0 (560)	18.9	23.4	53.0	4.6
	都・区市町村の公営賃貸住宅	100.0 (245)	<u>26.5</u>	26.1	39.6	7.8
	都市再生機構（旧公団）・公団などの賃貸住宅	100.0 (107)	17.8	38.3	39.3	4.7
	借家（一戸建て）	100.0 (48)	20.8	20.8	47.9	10.4
	高齢者向け住宅など	100.0 (32)	28.1	6.3	43.8	21.9
	その他	100.0 (28)	14.3	14.3	60.7	10.7
22年度		100.0 (4,767)	17.7	25.5	51.5	5.3

(4) ケアハウスの認知度－性・年齢階級、住宅の種類別

「知っている」の割合は、年齢階級が上がるにつれて低くなる

ケアハウスの認知度を年齢階級別にみると、年齢階級が上がるにつれて、「知っている」割合は、低くなっている（16.6%～32.5%）。

住宅の種類別にみると、「知っている」の割合は、持家（分譲マンションなど）に住んでいる人が34.8%で、総数の割合（28.2%）より6.6ポイント高くなっている。一方、都・区市町村の公営賃貸住宅に住んでいる人の「知っている」割合は21.6%で、総数の割合（28.2%）より6.6ポイント低くなっている。（表6-7）

表 6-7 ケアハウスの認知度－性・年齢階級、住宅の種類別

		総 数	知 っ て い る	言 中 あ 業 身 は は 聞 知 い ら な い こ い と が	知 ら な い	無 回 答
総数		100.0 (4,390)	28.2	35.2	29.5	7.1
性 別	男	100.0 (1,949)	24.0	35.4	33.5	7.1
	女	100.0 (2,441)	31.6	35.0	26.3	7.0
年 齢 階 級 別	65～74歳	100.0 (2,357)	32.5	37.7	25.7	4.1
	75～84歳	100.0 (1,587)	25.1	35.6	31.9	7.3
	85歳以上	100.0 (446)	16.6	20.2	41.0	22.2
住 宅 の 種 類 別	持家（一戸建て）	100.0 (2,637)	28.6	35.0	29.2	7.2
	持家（分譲マンションなど）	100.0 (715)	34.8	37.9	21.0	6.3
	民間賃貸住宅	100.0 (560)	22.7	33.0	38.9	5.4
	都・区市町村の公営賃貸住宅	100.0 (245)	21.6	33.9	37.1	7.3
	都市再生機構（旧公団）・公社 などの賃貸住宅	100.0 (107)	25.2	44.9	25.2	4.7
	借家（一戸建て）	100.0 (48)	25.0	33.3	27.1	14.6
	高齢者向け住宅など	100.0 (32)	18.8	21.9	34.4	25.0
	その他	100.0 (28)	28.6	25.0	35.7	10.7
22年度		100.0 (4,767)	23.7	35.9	35.2	5.1

(5) 東京シニア円滑入居賃貸住宅の認知度－性・年齢階級、住宅の種類別

「知らない」の割合は、年齢階級が上がるにつれて低くなる

東京シニア円滑入居賃貸住宅の認知度を年齢階級別にみると、「知らない」の割合は、年齢階級が上がるにつれて、低くなっている（66.1%～76.4%）。

住宅の種類別にみると、「知っている」の割合は、持家（分譲マンションなど）に住んでいる人が10.3%で、総数の割合（8.4%）より1.9ポイント高くなっている。「知らない」の割合は、民間賃貸住宅に住んでいる人が78.0%で、総数の割合（73.9%）より4.1ポイント高くなっている。（表6-8）

表6-8 東京シニア円滑入居賃貸住宅の認知度－性・年齢階級、住宅の種類別

		総 数	知 っ て い る	が 言 中 あ あ る は は 聞 知 い ら な こ い と が	知 ら な い	無 回 答
総数		100.0 (4,390)	8.4	10.4	73.9	7.2
性 別	男	100.0 (1,949)	7.0	10.7	75.1	7.2
	女	100.0 (2,441)	9.5	10.2	73.0	7.3
年 齢 階 級 別	65～74歳	100.0 (2,357)	9.3	10.2	76.4	4.1
	75～84歳	100.0 (1,587)	8.2	11.8	72.5	7.5
	85歳以上	100.0 (446)	4.5	6.5	66.1	22.9
住 宅 の 種 類 別	持家（一戸建て）	100.0 (2,637)	8.7	10.3	73.7	7.3
	持家（分譲マンションなど）	100.0 (715)	10.3	11.9	71.3	6.4
	民間賃貸住宅	100.0 (560)	6.3	10.4	78.0	5.4
	都・区市町村の公営賃貸住宅	100.0 (245)	7.3	7.8	77.1	7.8
	都市再生機構（旧公団）・公社 などの賃貸住宅	100.0 (107)	7.5	15.9	72.0	4.7
	借家（一戸建て）	100.0 (48)	6.3	8.3	70.8	14.6
	高齢者向け住宅など	100.0 (32)	3.1	-	71.9	25.0
	その他	100.0 (28)	3.6	7.1	78.6	10.7

3 高齢期の住まい

(1) 希望する高齢期の住まい（介護が必要にならないうち）

現在、介護保険制度の要介護認定を申請していない人（3,731人）に、介護が必要にならないうちの高齢期の住まいについて、どのようにしたいと思うか聞いた。

「現在の住宅に住み続けたい」割合が最も高く、7割

「現在の住宅に住み続けたい」の割合が最も高く72.0%、次いで「高齢者向け住宅（サービス付き高齢者向け住宅など）に入居したい」の割合が6.7%となっている。（表6-9）

表6-9 希望する高齢期の住まい（介護が必要にならないうち）

	総 数	現 在 の 住 宅 に 住 み 続 け た い	一 子 供 や 親 族 の 家 ま た は そ の 近 く の	有 料 老 人 ホ ー ム に 入 居 し た い	高 齢 者 向 け 住 宅 な ど （ サ ー ビ ス 付 き 高 齢 者 向 け 住 宅 な ど ） に 入 居 し た い	上 記 2 〜 4 （ 注 ） 以 外 の 一 般 の 住 宅 に 移 り た い	そ の 他	わ か ら な い	無 回 答
27年度	100.0 (3,731)	72.0	2.2	2.2	6.7	2.3	1.3	8.8	4.4

注) 上記2〜4とは、「子供や親族の家またはその近くの一般の住宅に移りたい」、「有料老人ホームに入居したい」、「高齢者向け住宅（サービス付き高齢者向け住宅など）に入居したい」を指す。

ア 希望する高齢期の住まい（介護が必要にならないうち）

一性・年齢階級、世帯構成（世代）、配偶者の有無別

「現在の住宅に住み続けたい」の割合は、一世代（夫婦のみ）、二世帯の世帯は 7 割、単身世帯（ひとりぐらし）の場合は 6 割

希望する高齢期の住まい（介護が必要にならないうち）を性別で見ると、「現在の住宅に住み続けたい」の割合は、男性 69.5%、女性 74.2%で、女性の方が 4.7 ポイント高くなっている。

世帯構成（世代）別にみると、一世代（夫婦のみ）、二世帯の世帯は、「現在の住宅に住み続けたい」の割合が 74.1%、74.2%で、それぞれ 7 割となっている。単身世帯（ひとりぐらし）は、「現在の住宅に住み続けたい」の割合が 60.8%で、総数の割合（72.0%）より 11.2 ポイント低く、「高齢者向け住宅（サービス付き高齢者向け住宅など）に入居したい」の割合は 11.5%で、総数の割合（6.7%）より高くなっている。

配偶者の有無別にみると、「現在の住宅に住み続けたい」の割合は、配偶者ありの人が 7 割、配偶者なしの人のうち、未婚、離別の人が 5 割超となっている。（表 6-10）

表 6-10 希望する高齢期の住まい（介護が必要にならないうち）

一性・年齢階級、世帯構成（世代）、配偶者の有無別

		総数	現在の住宅に住み続けたい	子供や親族の家またはその近く	有料老人ホームに入居したい	高齢者向け住宅（サービス付き）に入居したい	上記 2～4（注）以外の一般的な住宅に移りたい（自然環境のよいところなど）	その他	わからない	無回答
総数		100.0 (3,731)	<u>72.0</u>	2.2	2.2	<u>6.7</u>	2.3	1.3	8.8	4.4
性別	男	100.0 (1,711)	<u>69.5</u>	2.2	2.6	6.0	2.8	0.9	10.5	5.6
	女	100.0 (2,020)	<u>74.2</u>	2.3	1.9	7.3	1.9	1.5	7.4	3.5
年齢階級別	65～74歳	100.0 (2,209)	69.5	2.8	1.9	7.2	3.2	1.4	9.7	4.2
	75～84歳	100.0 (1,294)	76.0	1.6	2.7	6.2	1.1	0.9	7.5	4.0
	85歳以上	100.0 (228)	74.1	0.4	1.8	4.8	0.4	1.3	7.5	9.6
（世帯構成）別	単身世帯（ひとりぐらし）	100.0 (748)	<u>60.8</u>	2.4	2.5	<u>11.5</u>	3.6	1.7	13.4	4.0
	一世代（夫婦のみ）	100.0 (1,443)	<u>74.1</u>	2.6	2.4	6.2	1.7	0.9	8.0	4.1
	二世帯	100.0 (1,191)	<u>74.2</u>	2.1	2.0	4.7	2.5	1.3	8.1	5.0
	三世帯	100.0 (253)	81.4	0.4	1.2	5.1	0.4	1.6	4.0	5.9
配偶者の有無別	配偶者あり	100.0 (2,431)	<u>74.9</u>	2.3	2.1	5.2	2.1	0.9	8.0	4.4
	配偶者なし	100.0 (1,287)	66.6	2.0	2.3	9.5	2.8	1.9	10.3	4.5
	未婚	100.0 (247)	<u>52.2</u>	1.2	3.2	14.6	5.3	3.6	16.6	3.2
	死別	100.0 (780)	75.0	1.8	2.6	5.6	1.5	1.5	6.5	5.4
	離別	100.0 (260)	<u>55.0</u>	3.5	0.8	16.2	4.2	1.5	15.8	3.1

注）上記 2～4 とは、「子供や親族の家またはその近くの一般の住宅に移りたい」、「有料老人ホームに入居したい」、「高齢者向け住宅（サービス付き高齢者向け住宅など）に入居したい」を指す。

イ 希望する高齢期の住まい（介護が必要にならないうち）－住宅の種類別

民間賃貸住宅に住んでいる人では、「現在の住宅に住み続けたい」の割合が3割、「高齢者向け住宅（サービス付き高齢者向け住宅など）に入居したい」の割合が2割

希望する高齢期の住まい（介護が必要にならないうち）を住宅の種類別にみると、持家（一戸建て）に住んでいる人では、「現在の住宅に住み続けたい」の割合が80.6%で、8割となっている。民間賃貸住宅に住んでいる人では、「現在の住宅に住み続けたい」の割合が32.1%で、総数の割合（72.0%）より39.9ポイント低く、「高齢者向け住宅（サービス付き高齢者向け住宅など）に入居したい」の割合は19.9%で、総数の割合（6.7%）より13.2ポイント高くなっている。（表6-11）

表6-11 希望する高齢期の住まい（介護が必要にならないうち）－住宅の種類別

	総数	現在の住宅に住み続けたい	一子般のや親族にの移りまたはその近くの	有料老人ホームに入居したい	高齢者向け住宅など（サービス付き高齢者向け住宅など）に入居したい	上記2～4（注1）以外の一般の住宅に移りたい	その他	わからない	無回答
総数	100.0 (3,731)	<u>72.0</u>	2.2	2.2	<u>6.7</u>	2.3	1.3	8.8	4.4
持家（一戸建て）	100.0 (2,253)	<u>80.6</u>	1.3	1.9	4.0	1.2	0.6	5.7	4.7
持家（分譲マンションなど）	100.0 (634)	75.1	1.6	4.3	5.4	2.1	0.6	7.4	3.6
民間賃貸住宅	100.0 (467)	<u>32.1</u>	7.3	1.9	<u>19.9</u>	7.1	5.1	22.3	4.3
都・区市町村の公営賃貸住宅	100.0 (205)	72.7	1.5	1.0	7.8	2.4	1.0	8.3	5.4
都市再生機構（旧公団）・公社などの賃貸住宅	100.0 (93)	62.4	4.3	1.1	7.5	4.3	3.2	17.2	-
借家（一戸建て）	100.0 (41)	43.9	4.9	-	17.1	4.9	2.4	19.5	7.3
その他	100.0 (18)	38.9	5.6	-	16.7	-	-	33.3	5.6

注1) 上記2～4とは、「子供や親族の家またはその近くの一般の住宅に移りたい」、「有料老人ホームに入居したい」、「高齢者向け住宅（サービス付き高齢者向け住宅など）に入居したい」を指す。

2) 「高齢者向け住宅など」は母集団が8人のため省略した。

(2) 希望する高齢期の住まい（介護が必要になったとき）

対象者全員に、介護が必要になったときの高齢期の住まいについて、どのようにしたいと思うか聞いた。

※現在、介護を受けられている方は、今後の希望を回答。

「現在の住宅に住み続けたい」割合が最も高く、5割

「現在の住宅に住み続けたい」の割合が最も高く 49.5%、次いで「介護保険で入所できる施設（特別養護老人ホームなど）に入所したい」が 13.1%となっている。（表 6-12）

表 6-12 希望する高齢期の住まい（介護が必要になったとき）

	総 数	現 在 の 住 宅 に 住 み 続 け た い	一 子 供 の 住 親 族 の 家 ま た は そ の 近 く の	有 料 老 人 ホ ー ム に 入 居 し た い	高 齢 者 向 け 住 宅 住 宅 な ど （ サ ー ビ ス 付 き 高 齢 者 向 け 住 宅 な ど ） に 入 居 し た い	介 護 保 険 で 入 所 で き る 施 設 へ 特 別	こ ろ に 移 り ま た い （ 注 ） 自 然 死 の 場 所 な ど ）	上 記 2 ～ 5 （ 注 ） 以 外 の 一 般 の 住 宅	そ の 他	わ か ら な い	無 回 答
27年度	1000 (4,390)	49.5	2.3	6.1	8.3	13.1	1.0	1.0	11.3	7.3	

注) 上記 2～5 とは、「子供や親族の家またはその近くの一般の住宅に移りたい」、「有料老人ホームに入居したい」、「高齢者向け住宅（サービス付き高齢者向け住宅など）に入居したい」、「介護保険で入所できる施設（特別養護老人ホームなど）に入所したい」を指す。

ア 希望する高齢期の住まい（介護が必要になったとき）

－性・年齢階級、世帯構成（世代）、配偶者の有無別

「現在の住宅に住み続けたい」の割合は、配偶者ありの人は5割、配偶者なしの人のうち、未婚、離別の人は3割

希望する高齢期の住まい（介護が必要になったとき）を年齢階級別にみると、「介護保険で入所できる施設（特別養護老人ホームなど）に入所したい」の割合は、年齢階級が上がるにつれて、低くなっている（7.8%～14.7%）。

世帯構成（世代）別にみると、「介護保険で入所できる施設（特別養護老人ホームなど）に入所したい」の割合は、単身世帯（ひとりぐらし）が17.3%で、最も高くなっている。

配偶者の有無別にみると、「現在の住宅に住み続けたい」の割合は、配偶者ありの人が5割、配偶者なしの人のうち、未婚、離別の人が3割となっている。（表6-13）

表6-13 希望する高齢期の住まい（介護が必要になったとき）

－性・年齢階級、世帯構成（世代）、配偶者の有無別

		総数	現在の住宅に住み続けたい	子供や親族の家に移りたいは近くの一般の住宅に移りたい	有料老人ホームに入居したい	高齢者向け住宅（サービス付き高齢者向け住宅など）に入居したい	介護保険で入所できる施設（特別養護老人ホームなど）に入所したい	上記2～5（注）以外の一般的な住宅に移りたい	その他	わからない	無回答
総数		100.0 (4,390)	49.5	2.3	6.1	8.3	13.1	1.0	1.0	11.3	7.3
性別	男	100.0 (1,949)	49.9	2.1	6.2	7.5	11.8	1.1	0.9	12.7	7.8
	女	100.0 (2,441)	49.2	2.5	6.1	8.9	14.1	1.0	1.1	10.2	6.8
年齢階級別	65～74歳	100.0 (2,357)	46.1	2.6	6.1	10.4	<u>14.7</u>	1.4	1.1	13.1	4.7
	75～84歳	100.0 (1,587)	53.3	2.2	6.6	6.7	<u>12.2</u>	0.7	1.0	10.6	6.7
	85歳以上	100.0 (446)	54.3	0.9	4.7	2.7	<u>7.8</u>	0.4	1.1	4.9	23.1
（世帯構成）別	単身世帯（ひとりぐらし）	100.0 (938)	38.2	3.7	6.1	11.4	<u>17.3</u>	1.4	1.7	15.1	5.1
	一世代（夫婦のみ）	100.0 (1,630)	50.6	2.6	7.8	8.0	13.3	0.4	0.9	10.4	6.0
	二世代	100.0 (1,376)	54.1	1.5	4.9	6.5	11.4	1.5	0.9	10.5	8.7
	三世代	100.0 (330)	57.9	0.6	4.2	6.4	7.6	0.6	0.6	8.2	13.9
配偶者の有無別	配偶者あり	100.0 (2,744)	<u>52.7</u>	2.2	6.6	7.4	12.0	0.9	0.8	11.2	6.3
	配偶者なし	100.0 (1,628)	44.3	2.3	5.3	9.9	14.9	1.4	1.5	11.5	8.8
	未婚	100.0 (295)	<u>31.5</u>	1.0	6.1	12.5	23.7	2.7	1.4	15.6	5.4
	死別	100.0 (1,032)	51.0	2.3	5.8	8.4	11.4	0.7	1.3	7.9	11.1
	離別	100.0 (301)	<u>34.2</u>	3.7	3.0	12.3	18.3	2.3	2.3	19.6	4.3

注）上記2～5とは、「子供や親族の家またはその近くの一般の住宅に移りたい」、「有料老人ホームに入居したい」、「高齢者向け住宅（サービス付き高齢者向け住宅など）に入居したい」、「介護保険で入所できる施設（特別養護老人ホームなど）に入所したい」を指す。

イ 希望する高齢期の住まい（介護が必要になったとき）－住宅の種類別

「現在の住宅に住み続けたい」の割合は、持家（一戸建て）に住んでいる人は5割超、民間賃貸住宅に住んでいる人では2割

希望する高齢期の住まい（介護が必要になったとき）を住宅の種類別にみると、持家（一戸建て）に住んでいる人では、「現在の住宅に住み続けたい」の割合が57.7%で、総数の割合（49.5%）より8.2ポイント高くなっている。民間賃貸住宅に住んでいる人では、「現在の住宅に住み続けたい」の割合が19.1%で、総数の割合（49.5%）より30.4ポイント低くなっているのに対し、「介護保険で入所できる施設（特別養護老人ホームなど）に入所したい」の割合が22.0%で、総数の割合（13.1%）より8.9ポイント高くなっている。（表6-14）

表6-14 希望する高齢期の住まい（介護が必要になったとき）－住宅の種類別

	総数	現在の住宅に住み続けたい	子供や親族の家またはその近くの一般の住宅に移りたい	有料老人ホームに入居したい	高齢者向け住宅（サービス付き高齢者向け住宅など）に入居したい	介護保険で入所できる施設（特別養護老人ホームなど）に入所したい	上記2～5（注）以外の一般的な住宅に移りたい	その他	わからない	無回答
総数	100.0 (4,390)	49.5	2.3	6.1	8.3	13.1	1.0	1.0	11.3	7.3
持家（一戸建て）	100.0 (2,637)	57.7	1.2	6.8	6.7	10.2	0.5	0.7	8.5	7.8
持家（分譲マンションなど）	100.0 (715)	47.6	2.7	9.2	8.3	13.4	1.0	0.8	10.8	6.3
民間賃貸住宅	100.0 (560)	19.1	6.3	2.7	15.4	22.0	4.1	2.0	23.0	5.5
都・区市町村の公営賃貸住宅	100.0 (245)	51.0	2.4	0.8	5.3	21.2	0.8	2.0	10.2	6.1
都市再生機構（旧公団）・公社などの賃貸住宅	100.0 (107)	37.4	1.9	4.7	12.1	15.9	0.9	3.7	20.6	2.8
借家（一戸建て）	100.0 (48)	20.8	8.3	-	14.6	22.9	2.1	-	22.9	8.3
高齢者向け住宅など	100.0 (32)	65.6	-	3.1	-	-	-	3.1	6.3	21.9
その他	100.0 (28)	17.9	3.6	-	25.0	21.4	-	3.6	17.9	10.7

注) 上記2～5とは、「子供や親族の家またはその近くの一般の住宅に移りたい」、「有料老人ホームに入居したい」、「高齢者向け住宅（サービス付き高齢者向け住宅など）に入居したい」、「介護保険で入所できる施設（特別養護老人ホームなど）に入所したい」を指す。

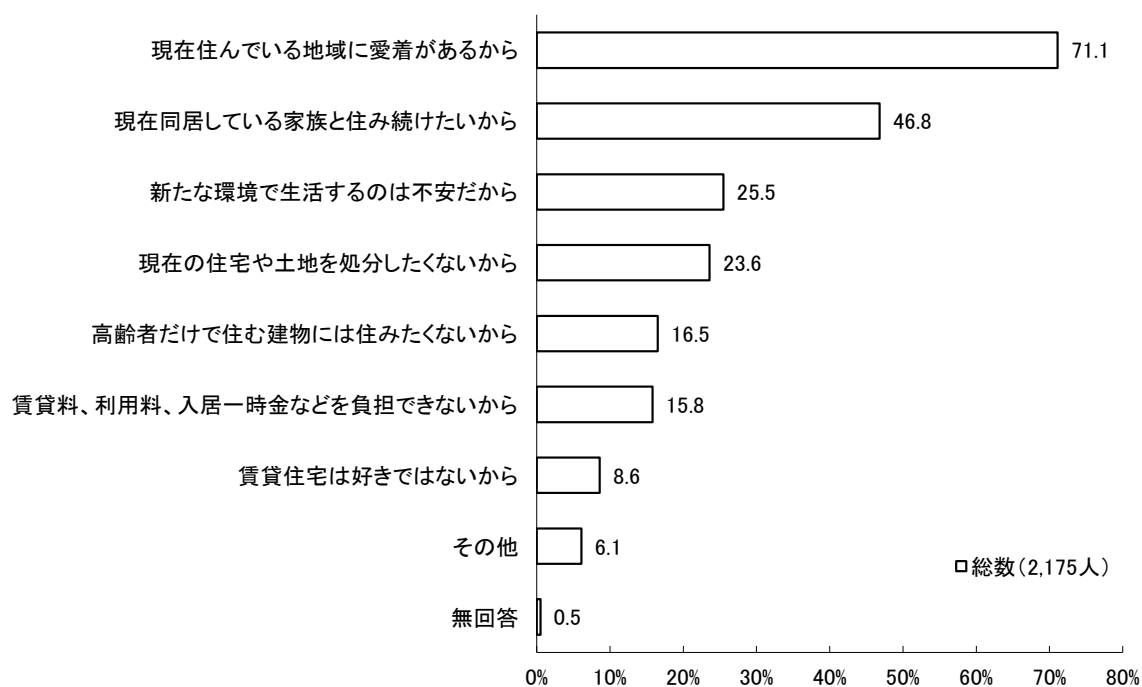
(3) 現在の住宅に住み続けたい理由（介護が必要になったとき）〔複数回答〕

希望する高齢期の住まい（介護が必要になったとき）で「現在の住宅に住み続けたい」と回答した人（2,175人）に、現在の住宅に住み続けたい理由を聞いた。

「現在住んでいる地域に愛着があるから」が最も高く、7割

「現在住んでいる地域に愛着があるから」が最も高く71.1%、次いで「現在同居している家族と住み続けたいから」が46.8%となっている。（図6-6）

図6-6 現在の住宅に住み続けたい理由（介護が必要になったとき）〔複数回答〕



ア 現在の住宅に住み続けたい理由（介護が必要になったとき）〔複数回答〕

一性・年齢階級、世帯類型別

いずれの年齢階級、いずれの世帯類型も「現在住んでいる地域に愛着があるから」の割合が最も高い

現在の住宅に住み続けたい理由を年齢階級別にみると、いずれの年齢階級も「現在住んでいる地域に愛着があるから」の割合が最も高くなっている（69.9%～74.4%）。

世帯類型別にみても、いずれの世帯類型も「現在住んでいる地域に愛着があるから」の割合が最も高くなっている（68.4%～74.5%）。（表 6-15）

表 6-15 現在の住宅に住み続けたい理由（介護が必要になったとき）〔複数回答〕

一性・年齢階級、世帯類型別

		総数	愛着が あるで かいら 地域に	分現 したの く住 な宅 いか ら地 を処	と現 住み 同居 けし たて いい から 家 族	の新 はた 不安 だ境 から 生活 する	な一 い時 か金 ら料 な、 ど利 を用 負担 、で 入居	い賃 から 住宅 は好 きで はな	に高 は齢 住者 みだ けく で住 いむ か建 ら物	そ の 他	無 回 答
総数		100.0 (2,175)	71.1	23.6	46.8	25.5	15.8	8.6	16.5	6.1	0.5
性別	男	100.0 (973)	70.8	25.0	51.2	21.7	15.0	8.7	15.9	5.9	0.4
	女	100.0 (1,202)	71.3	22.5	43.2	28.6	16.4	8.4	17.0	6.2	0.6
年齢階級別	65～74歳	100.0 (1,087)	<u>69.9</u>	24.0	46.5	24.8	17.0	8.1	17.9	5.4	0.4
	75～84歳	100.0 (846)	<u>71.6</u>	23.6	47.4	26.1	16.3	9.1	15.0	6.9	0.8
	85歳以上	100.0 (242)	<u>74.4</u>	21.9	45.9	26.4	8.3	8.7	15.3	6.2	-
世帯類型別	高齢者のみの世帯	100.0 (1,163)	73.1	22.3	31.6	28.1	15.3	7.7	16.5	8.6	0.7
	ひとり暮らし	100.0 (358)	<u>70.7</u>	16.2	3.6	31.0	18.2	5.6	19.0	15.6	0.6
	高齢者夫婦のみ	100.0 (753)	<u>74.5</u>	24.8	43.3	27.2	14.5	8.8	15.5	5.3	0.8
	その他	100.0 (52)	<u>69.2</u>	26.9	53.8	21.2	7.7	5.8	13.5	7.7	-
	高齢者のみでない世帯	100.0 (995)	<u>68.4</u>	25.1	64.4	22.7	16.5	9.6	16.6	3.1	0.3

イ 現在の住宅に住み続けたい理由（介護が必要になったとき）〔複数回答〕

－住宅の種類、本人の年収別

いずれの年収区分においても、「現在住んでいる地域に愛着があるから」の割合が最も高い

現在の住宅に住み続けたい理由を住宅の種類別にみると、高齢者向け住宅などに住んでいる人を除き、「現在住んでいる地域に愛着があるから」の割合が最も高くなっている（58.9%～80.0%）。

本人の年収別にみると、いずれの年収区分においても、「現在住んでいる地域に愛着があるから」の割合が最も高くなっている（65.5%～74.5%）。

また、「高齢者だけで住む建物には住みたくないから」の割合は、年収 500 万円以上 700 万円未満の人は 23.0%、700 万円以上の人は 29.6%で、500 万円未満の人と比較して高い割合になっている。（表 6-16）

表 6-16 現在の住宅に住み続けたい理由（介護が必要になったとき）〔複数回答〕

－住宅の種類、本人の年収別

	総数	愛着があるから 住んでいる地域に	現在の住みか 土地区域に	現在同居している 家族	新たな不安環境から 生活する	賃貸料、利用料、 入居	賃貸住宅は好きで はな	高齢者みだ けで住む建 物	その他	無回答	
総数	100.0 (2,175)	71.1	23.6	46.8	25.5	15.8	8.6	16.5	6.1	0.5	
住宅の種類別	持家（一戸建て）	100.0 (1,521)	<u>75.0</u>	28.7	50.9	25.2	14.0	11.2	17.1	3.9	0.5
	持家（分譲マンションなど）	100.0 (340)	<u>60.3</u>	20.6	42.9	25.3	15.6	4.4	19.7	9.1	0.3
	民間賃貸住宅	100.0 (107)	<u>58.9</u>	1.9	31.8	28.0	19.6	-	11.2	18.7	0.9
	都・区市町村の公営賃貸住宅	100.0 (125)	<u>70.4</u>	0.8	32.0	26.4	34.4	0.8	10.4	4.0	-
	都市再生機構（旧公団）・公社などの賃貸住宅	100.0 (40)	<u>77.5</u>	5.0	30.0	37.5	20.0	-	12.5	7.5	2.5
	借家（一戸建て）	100.0 (10)	<u>80.0</u>	10.0	60.0	20.0	10.0	-	10.0	-	-
	高齢者向け住宅など	100.0 (21)	33.3	-	4.8	14.3	-	-	-	61.9	-
本人の年収別	200万円未満	100.0 (1,100)	<u>70.2</u>	19.4	43.3	26.6	19.5	7.7	14.6	6.3	0.5
	200万円以上 500万円未満	100.0 (764)	<u>72.4</u>	27.4	50.5	24.3	13.4	9.2	18.1	5.9	0.5
	500万円以上 700万円未満	100.0 (87)	<u>65.5</u>	34.5	52.9	24.1	10.3	10.3	<u>23.0</u>	8.0	-
	700万円以上	100.0 (98)	<u>74.5</u>	35.7	59.2	25.5	4.1	15.3	<u>29.6</u>	5.1	-

注) 住宅の種類のうち「その他」は、母集団が5人のため省略した。

4 自宅以外(サービス付き高齢者向け住宅など)の住まいに支出できる費用

対象者全員に、将来、介護などの支援が必要となって、もし自宅以外(サービス付き高齢者向け住宅、有料老人ホーム、特別養護老人ホームなど)に住むことになった場合、月々どの程度であれば支出できるか聞いた。

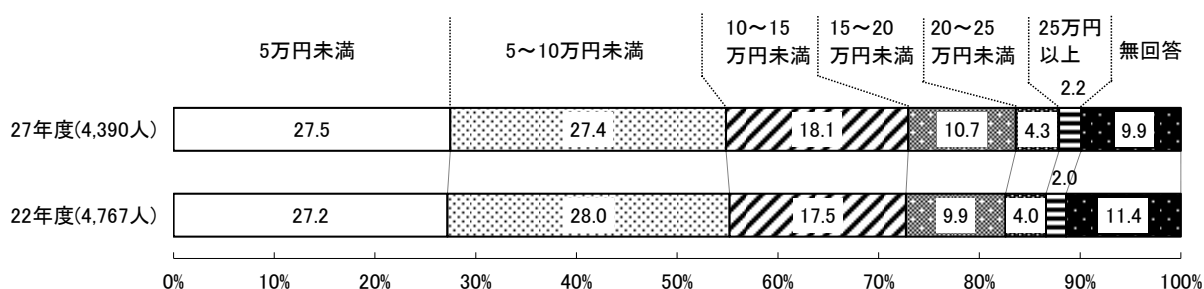
※ 「費用」は、室料のほか、生活支援サービス(安否確認、食事提供、家事援助など)、介護保険サービスなど必要なサービスを受けた場合を想定し、自分が負担できる範囲の費用を回答。

※ 入居時の一時金については、除く。

「5万円未満」が27.5%、「5～10万円未満」が27.4%でほぼ同率

「5万円未満」の割合が27.5%、「5～10万円未満」が27.4%とほぼ同率となっている。
(図6-7)

図6-7 自宅以外(サービス付き高齢者向け住宅など)の住まいに支出できる費用



(1) 自宅以外(サービス付き高齢者向け住宅など)の住まいに支出できる費用

一性・年齢階級、本人の年収別

本人の年収が200万円未満では、「5万円未満」の割合が最も高く、4割

将来、介護などの支援が必要となって、もし自宅以外に住むことになった場合、月々の程度であれば支出できるかを本人の年収別にみると、年収が200万円未満では、「5万円未満」の割合が38.9%で最も高く、総数の割合(27.5%)より11.4ポイント高くなっている。

年収が700万円以上では、「25万円以上」の割合が19.4%で最も高く、総数の割合(2.2%)より17.2ポイント高くなっている。(表6-17)

表6-17 自宅以外(サービス付き高齢者向け住宅など)の住まいに支出できる費用

一性・年齢階級、本人の年収別

		総 数	5 万 円 未 満	5 5 1 0 5 万 円 未 満	1 0 5 1 5 万 円 未 満	1 5 5 2 0 万 円 未 満	2 0 5 2 5 万 円 未 満	2 5 万 円 以 上	無 回 答
総数		100.0 (4,390)	27.5	27.4	18.1	10.7	4.3	2.2	9.9
性別	男	100.0 (1,949)	24.0	27.6	19.3	10.9	5.3	3.2	9.6
	女	100.0 (2,441)	30.2	27.2	17.1	10.5	3.4	1.4	10.1
年齢階級別	65～74歳	100.0 (2,357)	29.8	29.5	18.8	10.0	3.7	1.8	6.4
	75～84歳	100.0 (1,587)	26.5	26.6	17.6	11.1	5.2	2.6	10.5
	85歳以上	100.0 (446)	18.6	18.6	16.4	12.6	4.3	3.1	26.5
本人の 年収別	200万円未満	100.0 (2,183)	38.9	29.5	13.7	6.0	1.3	0.5	10.1
	200万円以上 500万円未満	100.0 (1,542)	17.1	28.7	25.0	15.9	5.6	1.9	5.8
	500万円以上 700万円未満	100.0 (183)	10.4	16.9	26.2	19.1	13.7	7.7	6.0
	700万円以上	100.0 (216)	3.7	14.4	15.7	17.6	18.5	19.4	10.6

